



長崎 佐賀 福岡 第3回 三県合同 研修会

八月三日(日)午前十時から福岡市のリーセントホテルに於いて、佐賀・長崎・福岡

でそれぞれ通院介護事業に携わっている事業所と、ボランティアの方々七十余名が一堂に会し合同のボランティア研修会が開催されました。

三回目を迎え今年には、「ステップ福岡」の主催で行われました。「さわやか」からは、江頭会長、岡副会長をはじめボランティアさんと事務局から十二名で参加させていただきました。

第一部の講演会では、福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター所長江口宏展様の「ボランティア活動とは…」という演題で、ボランティアの語源(ラテン語のボランティア:自由、正義、勇気の意味)から始まり、ボランティアの役割 ①地域社会や福祉ニーズに積極的に応えようとする先駆的役割 ②公的制度が行き届かないところを補う補完的役割 ③制度や行政施策に対して建設的批判をする

批判的役割 ④行政施策と住民の間で理解・協力者として活動する架け橋的役割 ⑤地域福祉を守り育てる相互扶助の精神を普及する啓発的役割がある。ということ講演されました。

また「ステップ福岡」のボランティアさんで、以前損害保険会社にお勤めされていた今村幸憲さんは「交通事故の法的対策」という演題で講演されました。概要は、事故発生時の任意保険の手続は、すべて保険会社が行なうので、被保険者は何もしなくてもよい。相手方に何を言われても、

全て保険会社の責任で行ないます。個人的に話をされると、保険会社が仲介に入った意味がなくなり、ただ被保険者と何の責任もないかというところではなく、道義的責任があることを忘れないでください。被害者へのお見舞いなど、金銭問題ではなく、道義的問題でトラブルが発生する原因になります。など長年の経験に基いたお話で非常に説得力のある内容でした。

これらの講演に対する質疑応答では、「さわやか」の田村さんや、高倉さんが、熱心に質問をされていました。



その後、全員で記念写真の撮影をし、第二部の懇親交流会へと移りました。そこで、重松クリニック院長の重松先生と、福岡協の田代副会長の挨拶があり、「ステップ福岡」のボランティアの毛利さんの乾杯の音頭で交流会がはじまりました。

食事をしながら、日ごろなかなか会うことができない各事業所の方々の間で、あちらこちらで、話の花が咲いていました。また、各事業所の現状報告も行なわれました。趣向を凝らしたアトラクションのゲームでもまた盛り上がりつつありました。最後に、次回開催の「さわやか」江頭会長より「来年は北九州で事務局一同皆様をお待ちしております。」と挨拶があり、今年の三県合同ボランティア研修会は幕を閉じました。

三県合同ボランティア研修会が終了し、ほっと一息ついていると「さわやか」レディースから呼び出しがかかり「会長、今後の予定を検討しましょう」とのこと。昨日研修会が終わったばかりなのに、「さわやか」レディースのエネルギーは驚くものがあります。「ステップ福岡」に刺激されたのかどうかは知る由もありませんが、「さわやか」の事務所集まりました。今後の活動の予定と概要について、会議での決定事項をお知らせします。

当面最初の行事はバスハイクです。十月二十六日に行ないます。目的は、球磨川下りにしていただき、往復七時間もかかるので、もう少し身近なところにして、観光会社と相談中です。決定しましたらお知らせいたします。年一回のバスハイクです。乞うご期待!

ボランティア研修交流会は、二月十五日に行ないます。内容は、現在検討中です。今、考えているのは、精神科の医師による、「うつ病・ストレス」など、現代人が誰でもかかる病について講義をしてもらおうかと考えています。皆さんで聞きたい内容の話があれば、事務局までご連絡下さい。

“さわやかレディース”絶好調

幸博 江頭 会長

今回の三県合同ボランティア研修会は、北九州の「さわやか」主催で行なう事になっていまして、門司港レトロを見たいとの各県の要望もあり、門司港に場所をと考えましたが、適当な場所がなく、恒例の「八幡ロイヤルホテル」を、押さえています。日時は七月二十五日です。内容は、パネルディスカッションで、ボランティアの皆様に、ボランティアの苦労話、感動話、利用者の態度等々、縦横に話してもらいます。ボランティアの皆様に、日ごろ思いの丈を語ってもらい、場内ともやりとりし、ボランティアさんの交流の場にしたいと思えます。

パネルディスカッションは、初めての試みですが、皆様の期待に沿うよう頑張ります。ほっとひと息つく間もなく、以上の計画を一气に立てました。まだ、計画の段階ですので、今後変更になるかもしれませんが、その時はお許し下さい。それにしても、「さわやか」レディースのエネルギーには、脅威を感じます。それに負けぬように頑張ります。

小倉事業所ボランティア

徳永 定嗣

去る八月三日、三県合同ボランティア研修会が福岡市にて行なわれ、「さわやか」の一員として出席しました。講演会は「ボランティア活動とは」と「交通事故の法的対策」の二題について行なわれ大変勉強になりました。特に送迎ボランティアに携わっている者としては常日頃、交通安全に多大の関心を払っており「交通事故対策」は興味深く聴かせていただきました。先の「さわやか」の研修会では、警察の方による交通事故の実態や、その対策・心構えについて伺いましたが今回は損害保険会社勤務の経歴のある講師による事故対処法を聴くことができ大変参考になりました。

要点は、交通事故発生の際、まず警察に連絡すること（事故証明）と、保険会社に連絡して、交渉を一任すること（個別交渉はしない）の二点でした。但し、江頭会長も指摘されたようにやはり道義的には本人の挨拶や見舞いは欠かせないということでした。いずれにせよ、交通事故を起こさない事が第一でこれからも安全運転に努めたいと思います。

三県合同研修会に参加して

小倉事業所ボランティア

瀬戸 和人

最近ボランティア活動は子供からお年寄りまで年齢層が広がることもその種類も非常に広範囲なものになりつつあります。以前テレビで「チヨボラ」という言葉を引用したコーナーが流れていました。また、先日の新聞では、受刑者が社会復帰した場合を考えボランティア活動の体験実習や学校教育の一環として体験学習の取り入れ等、是非は別としてボランティア団体の設立に関わっているスタッフの方々の並々ならぬご苦労・努力は計り知れないものがある。そのようなスタッフのお気持ちを大切に、その過程や経過を伝える事が大事ではないだろうか。ともすれば、最近ボランティアの表面だけを取り上げているように見え、

つらいものがある。

ボランティアというものは決して強制されてするものではないはずだし、まして、有償ボランティアなるものは世代や世相の違いで生まれたものにせよ、今一度、基本に立ち返る必要があると考えます。

先日、「三県合同ボランティア研修会」に参加をして驚いたことに総勢七十三名の方が集い、豪華絢爛な宴でした。お二人の講師の内容も大変興味を引かれました。質疑応答も活発で、特にボランティア活動を体験した生徒に証明書を発行する必要性の是非やその運用性の問題等々疑問だらけでした。私は「心」を教育する事がもっとも大事で大切だと思うのですが、それにしても「さわやか」に追いつき追い越せという気持ちが充分に伝わる研修会でした。今後は四県・五県合同になり更に盛大になりスタッフの方々にとって嬉しい悲鳴になる事を期待しています。

私の近況ですが、実は梶原コーディネーターから毎月、「今



今村幸憲さん

「交通事故の法的対策」



江口宏展さん

「ボランティアとは」

悪魔のささやき

完結編？



（本人のコメントより）
先月の新聞に載せてしまったばかりに、（当初の自分の意思に反して）本当にたばこを止めることになってしまいました。今は、きっかけが何であれ、止められたことに感謝しています。
と本人は言っておりますが、身近にいる私達はいっ出るかわからない《禁断症状》に恐れをなしています。
あるボランティアさんが、「一ヶ月じゃまだまだ、一年止めることができれば大丈夫よ」と言っていました。もし、また悪魔がささやくような事があればすぐにお知らせします。

月もお休みされていいですよ」との返事をいただき内心「ラッキー」とかは思っていないかもしれませんが複雑な気持ちをしている状況です。でもネ、仕事をしているからとつても助かってますよ。
最後に、我が家の一員としてしっかり存在価値を高めている一匹について、年齢は多分二十代後半位、身長は約五十五センチ最近ではこの一匹に家族全員が癒されているように思える。少々警戒心が無い所は心配ではあるが？尚、体重は本人の希望により、ヒ・ミ・ツ。